

苫小牧市行政創革プラン 改定案について

行政創革プランの基本的な考え方



行政改革推進計画から行政改革プランまで

第1～3次行政改革推進計画（平成9～21年度）

- ・ 厳しい財政状況を背景に、**行政費用の抑制に主軸を置いた行政改革**を展開。

行政改革プラン（平成22～26年度）

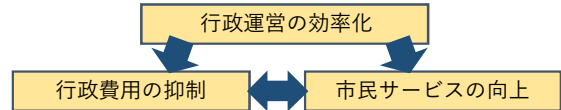
- ・ 市民サービスの向上を図りつつ、行政費用の抑制に向け、**正規職員の削減などの取組を継続**。
- ・ 指定管理者制度の導入や市営バスの民間移譲などの**民間活力の積極的な活用を進める**。

財政状況の着実な改善

行政改革プラン-NEXT STAGE-

行政改革プラン-NEXT STAGE-（平成27～31年度）

- ・ 将来にわたり安定的・継続的に市民サービスを提供するため、**行政費用の抑制に向けた取組は継続**。
- ・ これに加え、多様化する市民ニーズに対応した**質の高い市民サービスの提供を積極的に実施**する。



行政創革プラン（令和2～6年度）

「新たな時代」という認識

- ・ 少子高齢化及び人口減少社会の一層の進行
- ・ ICTを中心とした技術の急速な発展
- ・ 国際化の進展と人口流動性の高まり
- ・ 人々の生活様式や価値観の多様化
- ・ インフラを含む多くの公共施設の老朽化

「発想の転換＝パラダイム・シフト」が必要

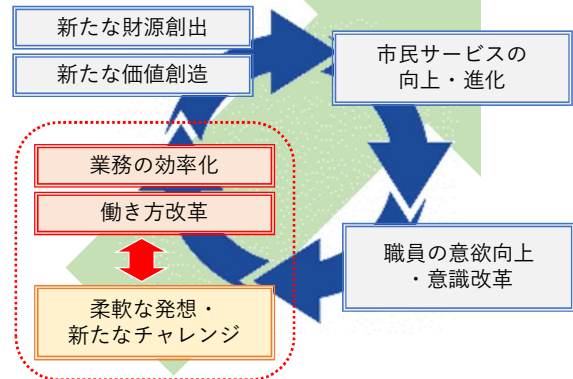
これまでの行政改革（＝Administrative Reformation）

◇「すでにあるもの」を改善し、効率化を図る取組が中心

これからの『行政創革』（＝Administrative Innovation）

◇これまでの行政改革における方向性を継承しながら、**「まだないもの」を発想し、創り上げる取組を積極的に行う**

行政創革のスパイラルアップ



行政創革プランにおける7つのテーマ

1. 健全な財政運営

財政基盤の確立・強化は、将来に向けた市民サービスの進化のためにも、継続して取り組むべき重要な課題である。今後は、費用の抑制だけでなく、新たな財源創出に向けた取組を積極的に進める必要がある。

2. 市民サービスの進化

個人の生活様式や価値観の多様化が進む中、その時代に合わせた市民サービスの提供を意識していかなければならない。また、手続の電子化・自動化など、市民の利便性向上とともに行政事務の効率化を両立する視点も必要である。

3. 協働の推進

今後のまちづくりにおいては、市民・企業との協働をさらに推進し、あらゆる場面で参画する機会を拡大しながら、市民・企業が持つ能力や資源を行政運営においても活用していくことが重要である。

4. 公共施設のマネジメント

インフラを含む公共施設の多くが老朽化による更新時期を迎える中、その財源確保等は大きな課題である。市民のライフスタイルを最優先に考えた施設整備に向け、公共施設全体のマネジメントを強化するとともに、様々な手法の活用を検討する必要がある。

5. 民間活力の活用

民間活力の活用については、これまでの本市の行政改革において大きな成果をあげてきた分野である。今後も「民間に委ねることが可能なもの、民間になじむものは民間へ」の考え方を基本とし、積極的に推進する必要がある。

6. ICTの活用

情報通信技術（ICT）の発展やスマートフォンの普及に伴い、このような技術の活用は、市民サービスの進化と行政事務の効率化に向けて必須である。スマート自治体の実現に向け、様々な可能性を検討する必要がある。

7. 職員の人材育成と「働き方改革」 簡素で効率的な組織づくり

行政運営においては、その実施主体となる職員の意識改革と人材育成が重要である。また、限られた人的資源の有効活用を図り「働き方改革」の実現を目指すことや、今後も不断の取組として簡素で効率的な組織体制の構築を進めることも必要である。

◇行政創革の推進にあたっては、これらのテーマを踏まえ、具体的な取組を実施する。

◇各取組項目は、複数のテーマに関連する形で構成する。

苫小牧市行政創革プラン 改定版（案）について

1 見直しの考え方

本プランも策定から2年を経過し、取組の中にはプラン策定当初には具体的な内容を決定できなかったもののほか、様々な環境の変化によって取組の見直しが必要なものがあることから、中間年となる令和4年度に取組内容の追加や修正など、プラン全体の見直しを実施する。

2 新たな実践項目の追加

(1) 新規実践項目 25 項目

No.	取組項目名	実践項目数		
		現行	R5 新規	合計
No.1	新たな財源確保に向けた取組	3	1	4
No.2	民間資本の活用の検討	3	1	4
No.3	市立病院の経営健全化に向けた取組	1		1
No.4	市政情報の効果的な発信	3	2	5
No.5	多文化共生のまちづくりの推進	3	1	4
No.6	公共交通の利便性向上に向けた取組	2		2
No.7	窓口の利便性向上に向けた取組	3	1	4
No.8	支払方法の多様化	3		3
No.9	市民の安全安心に関する取組	3	1	4
No.10	町内会の活性化に向けた取組	1		1
No.11	公共施設マネジメントの推進	7	2	9
No.12	行政事務の民間委託	6	3	9
No.13	公共施設等への民間活力の活用	4	1	5
No.14	上下水道事業への民間活力の活用	4		4
No.15	R P A の導入	4	1	5
No.16	A I の活用	2		2
No.17	庁内文書の電子化の推進	4		4
No.18	庶務事務の効率化・集約化に向けた取組	4	3	7
No.19	システム化による業務の効率化	3	1	4
No.20	職員人材育成と「働き方改革」の推進	3	4	7
No.21	簡素で効率的な組織づくり	4		4
No.22	イノベーションによるまちの活性化	—	3	3
実践項目数計		70	25	95

(2) 新規実践項目の内容

該当取組項目	新規実践項目名
No.1 新たな財源確保に向けた取組	ふるさと納税の獲得に向けた新たな手法の導入
No.2 民間資本の活用の検討	ゼロカーボンの実現に向けた官民連携の推進
No.4 市政情報の効果的な発信	高齢者へのデジタル・ディバイド対策 市民参加手続の参加機会の充実
No.5 多文化共生のまちづくりの推進	アプリを活用した外国人向けの情報発信
No.7 窓口の利便性向上に向けた取組	終活支援サポート事業の検討
No.9 市民の安全安心に関する取組	災害に対する避難所の在り方の検討
No.11 公共施設マネジメントの推進	公共施設への再エネ導入・省エネ対策の実施 下水汚泥・し尿処理の広域化
No.12 行政事務の民間委託	有害鳥獣等処理・運搬業務の民間委託 がん検診事務のアウトソーシングの検討 公務補業務の在り方の検討
No.13 公共施設等への民間活力の活用	J F E リサイクルプラザ苫小牧への民間活力の導入の検討
No.15 R P A の導入	A I - O C R の導入の検討
No.18 庶務事務の効率化・集約化に向けた取組	支出事務の集約化 S M S を活用した徴収業務の見直し 施設予約の電子化
No.19 システム化による業務の効率化	入札事務の電子化
No.20 職員人材育成と「働き方改革」の推進	新たな階層別研修の実施 健康経営の推進 オフィス改革の推進 職員に対するパートナーシップ制度の浸透
No.22 イノベーションによるまちの活性化	スタートアップ企業への積極的支援 とまチョップ水の P R 促進 屋外を活用したまちの活性化

3 内容変更及び工程確定

内容の変更	19 項目
工程の確定	11 項目

※ 内容変更の主なもの

取組項目	実践項目 <u>(変更後)</u>
No.3 市立病院の経営健全化に向けた取組	<u>市立病院経営強化プラン</u> の策定と推進
No.4 市政情報の効果的な発信	<u>子ども・子育て情報発信アプリ</u> の導入
No.17 庁内文書の電子化の推進	<u>文書管理システム</u> の導入